令和7年度 学校評価報告書

学校番号(小71) 長崎市立(為石小)学校

1 教育目標

ためし　最高！～地元で学び　地元を活かし　地元とともに行動する子ども～

2 学校経営方針

諸法令等に則り、日々の教育活動を省察・改善し、児童に確かな学力を身に付けさせることを通して、正しい生活及び学習の習慣と正しい人権意識や協働精神を身に付けた児童を育成する目標を、学校・家庭・地域が共有・実践し、自他に誇れる校風を醸成する。

3 重点目標

・「確かな学力」の向上をめざす
・健やかな心と体を育成する
・家庭・学校・地域の連携により教育の充実を図る
・安全・安心に学べる教育環境を整備する

4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果（肯定的割合・%）				分析及び改善策
			児童生徒	保護者	地域	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	89	95	100	100	学校経営について、高い数値を示し、学校教育目標の達成に向けて尽力している。学校の雰囲気は、教職員の意見が低下しているが、改善に向けた建設的な意見も多かった。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	88	90	100	87	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している				93	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している				93	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	88	90	100	73	基盤となる心の教育について、それぞれの立場で取り組み、いずれも高い割合を示している。ただし、生活・生徒指導については、若干低下している。教職員の「挨拶」「あはは運動」については、約30%低下した。生活指導主任を中心に対応策を検討し継続的な指導を行っていく。
		挨拶をよくしている	98	87	100	40	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	77	96	80	40	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	92	94	80	100	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	93	89	100	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	97	95	80	80	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	96	96	100	93	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	95	94	80	100	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	83	98	100	100	学力の定着に向けても効果的な取組が行われている。家庭学習の習慣化についてはAIドリルの活用等を行った。キャリア教育では、外部講師の活用等により上昇しているが、地域への愛着については10%低下しており、地域との連携を推進する必要がある。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	95	99	100	93	
		家庭学習の習慣が身に付いている	87	82	100	87	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	83	93	80	100	
		長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである	86				

健やかな体	保健・衛生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	96	96	100	100	いずれも高い数値を示しており、保護者の体力向上は12%上昇した。外遊び等の効果が見られる。ただし児童の早寝・早起き・朝ごはんは11%低下。今後も生活リズムチェックに取り組み、学校保健委員会での協議等により意識化を図っていく。
	体力向上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている	77	86	80	93	
		体力向上に努めている	83	83	80	100	
	食育	食に関する教育活動を行っている	92	93	80	100	
信頼される学校	安全管理	児童生徒の安全に気を配っている	100	92	100	100	いずれも高い数値を示し、ほとんどの項目で昨年より上昇した。特に保護者の学校・PTAの連携は16%増加し、効果的な運営につながっている。
	情報提供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	94	93	100	100	
	PTA・地域との連携	学校はPTAや地域との連携がとれている	93	94	100	100	
	職員資質向上	研修が充実し、資質が向上している				100	
教育環境	環境整備	教育環境が充実し、整備されている	83	86	100	100	給食配膳室改修は運搬を円滑にし安全確保に効果を示した。引き続き心身の教育環境充実を目指す。
	職場環境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる				93	

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

全児童106名に対し、84名の保護者からの回答があり、回答率は７２．９％（昨年度比±０）であった。各項目の平均は、児童９０％（前年度比－２）、保護者９２％（前年度比＋２）、地域９３％（昨年度実施なし）、教職員９１％（昨年度比－３）と、大半が肯定的な意見であった。増加した項目については、児童ち７項目／23項目、保護者１１／22項目、教職員３／26項目となった。教職員に関しては、１３項目が100%で増減なしと改善に向けて取り組んでいた。

このうち、大きく増加した項目は、信頼される学校で全項目９０％以上の数値を示し、なかでも児童生徒の安全管理が児童１００％（前年度比＋１）保護者９２％（前年度比＋６）、ＰＴＡ・地域との連携が保護者９４％（前年度比＋16）、地域・教職員１００との成果が見られた。ＰＴＡ改革や学校運営協議会、地域コミュニティとの連携等により、教育効果を高めることにつながったを考える。ただし、キャリア教育における児童の地域愛着の項目が８６％と前年度比－10となったことから、地域行事と学校教育の連携等、さらなる充実を図っていく必要がある。

また、確かな学力においても増加した項目が多く、特に「わかりやすい授業」について、児童９５（前年度比＋１）、保護者９９（前年度比＋４）、地域１００、教職員１００（前年度比＋７）いずれにおいても高い数値であった。保護者より１００に近い数値を得られたことは大きな自信につながる。資質向上に向けた研修の充実を図り、さらに授業改善、学力向上へ生かしていく。

課題として、生活指導でのルール・マナーの順守、あいさつ、「あはは運動」の項目が低く、教職員は各項目７６、４０，４０％にとどまった。早速に３学期始業式には、校長講話にて児童に改善に向けた指導を行っている。教職員で課題を共有し、継続的な指導の徹底を図っていく。健やかな体においても早寝・早起き・朝ごはんについて、児童７７％（前年度比－11）と習慣化が図られていないことがうかがえる。保護者８６％（前年度比＋３）との乖離もあることから、実態を共有し、学校保健委員会等での改善策の検討を行う。

6 学校関係者評価

・よりよくなっていることも多く、よい教育活動につながっている。
・「あいさつ」を主体的な習慣に 大人と子供の認識のズレを解消し、あいさつを形式的な強制ではなく、児童の主体性に基づいた大切なコミュニケーション手段として習慣化させる必要がある。あいさつは、防犯対策としても機能する。ただし、あいさつを言えない子への温かい見守りも並行して行う必要がある。
・地域としては、「地域への愛着」と教育の融合 地元の祭り(祇園まつり・ペーロン等)やワークショップ、学校での地域学習を通じて、子供たちが「将来戻ってきたい」と思えるよう様々な取り組みを今後も行っていきたい。
・「学校・家庭・地域」の強固な連携 家庭でのしつけやPTA・民生委員との協力が必要を考える。学校に教育を任せきりにする保護者層(サイレント・マジョリティ)の存在も考慮しつつ、地域全体で子供を育てる体制を目指してほしい。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○ 児童の主体性を育むために、課題となっている項目について、児童会活動として改善につなげる。それにより、形だけでなく「あいさつ」の必要性などを考えたうえで「伝わるあいさつ」につなげていく。その取組と並行し、PTAの学級目標にも位置づけたり、自治会での話題にしたりして、共通の目標として取り組んでいく。
○地域と連携した行事の質を高めたり、参加者を多くするなどし、地域とのふれあいを深める。10月のモルック大会と学校の行事を共同開催にすることを検討する。総合的な学習の時間の教材化、自治会長と語るなどGTの導入、地域コミュニティ主催のワークショップの開催等、計画的に実施する。
○今回の結果については、後日、保護者にもお知らせする。また、PTA学級懇談会でも話題にし、保護者にも情報共有し、課題改善に取り組んでいく。学校だより等でも学校の考えを発信し、学校、家庭、地域、それぞれの立場において、共通理解のもと、よりよい教育活動につなげる。

※「4 自己評価」の「項目」欄には、領域毎に空欄を設定している。ここには、重点目標に即し、学校独自の「評価項目」並びに「質問内容」を追加することができる。
＜参考例＞ 読書活動、豊かな体験活動、部活動 等

※「4 自己評価」のアンケートは、4段階で回答するようになっているが、そのうち上位2段階を肯定的回答ととらえ、その割合(整数値のみ)を集計する。